

“ 平和的生存権 ” を脅かす軍事基地、原子力発電所とは共存できない！

日米両政府は岩国市民の怒りの声を無視し、未亡人製造機と揶揄される欠陥機 MV-22 オスプレイを強行陸揚げした。岩国基地はブラウン・ルートなど低空飛行訓練実施する中継基地として重要視されている。欠陥機オスプレイが北海道を除く全国 7 ルートで米戦闘機の低空飛行訓練に加えて住民の頭上を飛ぶのである。日米両政府はオスプレイの事故原因をパイロットの「操縦ミス」になすりつけ、事故率も改ざんし、「機体の安全性」を強調するのは明白である。

日米の約束事は広島を含め都会の人口密集地や動植物が生息する山間部の低空 150M を飛び、すべての“いきもの”命が危険に晒されるのである。

米国内でのオスプレイ飛行訓練は海上や広大な軍事基地の中で行われており、米国市民の安全性は確保されているのだ。しかも、2014 年配備予定のハワイ州カネオヘベイ海兵隊基地の環境影響評価（アセス）準備書では基地内の学校区域における騒音を午前 8 時～午後 3 時までの間は 45 デシベル（静かな事務所内）とするよう勧告している。しかも、フクロウやコウモリの営巣地を避けるよう飛行訓練の指示までしている。

沖縄では 8 月 5 日に大規模な「オスプレイ配備反対！」県民大会を開催する。この県民大会は与野党、経済団体、労働組合、様々な市民運動、医療・福祉団体などオール沖縄の怒りの集会となる。我々は岩国基地からの MV-22 オスプレイ移駐を断固阻止し、普天間基地の機能をマヒさせるための様々な闘いをつくり上げるであろう。普天間基地へのオスプレイ配備を阻止することが沖縄県北部にある東村高江ヘリパット建設を阻止することができるし、オスプレイ専用基地である辺野古新基地の建設阻止に繋がり、普天間基地の固定化策動を止め、基地閉鎖を勝ち取れるのである。

野田首相は「配備自体は米政府の方針で、どうしろ、こうしろという話ではない」と発言したが、国民の「生命」が危険に晒されていることを省みず、「単なる機種変更」とうそぶく傀儡政権＝被植民地国家の政府見解を許せない。

欠陥機オスプレイを日本の上空を飛ばさせない闘いを全国の仲間と連帯して作りあげよう！欠陥機オスプレイは米国へ持ち去れ！

国策である日米安保条約が国民の犠牲の上に成立するのであれば、日米安保を廃棄させよう！「安全神話」に騙された原子力政策を止揚させる闘いと連結しよう！

反原発、反被曝の思想をヒロシマ、ナガサキ、フクシマを中心に日本各地に広げよう！

2012 年 8 月 5 日（日）

安次富 浩（ヘリ基地反協共同代表）